

背景・目的

- 地域での低炭素型交通の確立が必須だが、公共交通が衰退し、マイカー交通が主流になっている地方部が多い現状。
- 低炭素型モビリティであるグリーンスローモビリティ(時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の電動モビリティ)は、一部地域で無償運送が行われているものの、地域での本格導入が進んでいない。
- 様々な地域へのグリーンスローモビリティの導入を進めることで、マイカー等からの移動手段の転換を促進する。高齢者の移動手段の確保や観光振興など、交通の低炭素化と併せて地域課題の解決を図る。
- 併せて、車両部材としてのCNFの実証、IoTを活用したサービスの構築など複数テーマにおけるグリーンスローモビリティの導入方法を検証する。

事業概要

グリーンスローモビリティ(ゴルフカート、eCOM8等)
 の車両購入費補助
 先進技術を活用したグリーンスローモビリティの導入実証事業
 (CNF、IoT技術の活用等)
 実施期間:2019年度~2023年度

事業スキーム

経費: 車両購入補助費、実証事業委託費
 対象: グリーンスローモビリティを使って旅客運送事業を行う
 地方公共団体及び地方公共団体と連携して旅客運送を行う
 団体等、バス事業者、タクシー事業者
 民間事業者等
 補助割合: 2/3



グリーンスローモビリティの特長

別紙

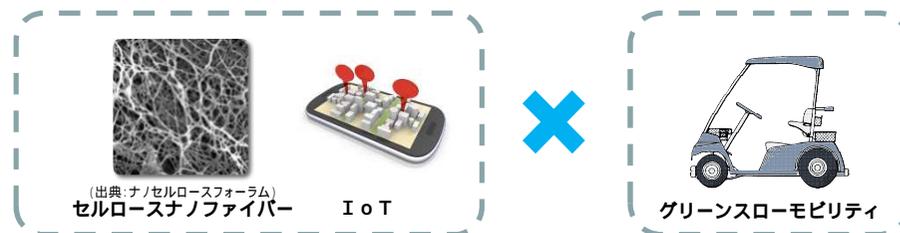
電動で時速20km未満で公道を走ることができる4人乗り以上のモビリティ

- Green:** 電気自動車
CO2排出量が少なく、GS撤退地域でも運行可
- Slow:** 時速20km未満、観光に適したスピード
- Safety:** 比較的安全、高齢者も運転可
- Small:** 小型なので道幅が狭くても問題ない
狭い道の中山間地・住宅地・離島など今まで公共交通を使えなかった地域で導入可能
- Open:** 開放的や対面式のシートで話が弾む
「乗りたい」「乗って楽しい」モビリティ



【事業のイメージ】

グリーンスローモビリティ導入にかかる購入経費を補助
 CNF、IoT等の先進技術を活用したグリーンスローモビリティの導入実証事業を実施



期待される効果

- 低炭素な移動手段への転換による、運輸部門におけるCO2排出量の削減。
- 様々な地域における活用方法確立により、多くの地域へ導入が波及。
- 導入台数の増加によるグリーンスローモビリティの価格低減。
- 先端技術の活用方法の実証による、より省エネ効果の高い導入方法の確立。